



おにはー そと ふくはー うち

もうすぐ節分。あちらこちらから聞こえてくる声と、
蒔かれた豆で邪気を抜って春を迎えます。

こっそり言いますが...

自分が鬼の役をするので思うのかどうか...分かりませんが、あの鬼たちはそれほどひどく悪いものではないなさそうですし、すこぶる嫌われている訳でも

なさそうです。

ほら、僕が昨年に描いたお粗末な絵ですが、豆まきの鬼の絵です。どこか憎めない感じがして豆まきのときの鬼らしく、へたくそですが眺めているうちに...今はずいぶん気に入っています。

もしかするとこの鬼たちは人が好きなのかもしれないと、思いました。

暦の上では長い冬から春の到来へつなぐ節分は、自ら悪を担って人々の前にわざわざ現れ、お払いされ退治される者として投げつけられる豆を一身に受けてくれるのですから!

鬼といっても、逆に人々の悪を背負う、まるでキリスト存在みたいにも...ずいぶん大袈裟ですが...見えてきます。


よろこびの春を迎えるには、「わたしたちはどんなふうにいるんだろう!？」と自問する自己認識の経過が必要なのでしょ。

鬼は、豆を投げられ打ち当てられる様を目に見えるように示してくれているのではないのでしょうか。

ことによると、投げているのもほんとうは自分であって、打たれ追われていくのと共に、どちらも自分自身なのかもしれません。

一年の内に節分は四つあり、それぞれの翌日に、立春・立夏・立秋・立冬となりますが、不思議に立春の前の節分だけが際立っています。

暗い冬からおひさまの甦りの季節に向かう一年の始まりの春だからなのかもしれません。

立春の「立」は...  ...人が大地の上に立つことを示しているようなのですが、新しい春の季節と共に、まさしく新しい自分として一人ひとりが再び現われる節目なのですわ。

「大きくなった発表会」そして卒園・進級に向けての学びを、よろこびいっぱいの中で、七転八倒を通して穏りゆたかに一歩いっほ進めることができますように!

園長 升光 泰雄